

■ 援助機関における組織文化

ワシントンDC開発フォーラム

2002年6月13日

藤江 顕

■ 本日のお品書き

- 組織文化？
- 日米協調にみる文化の「衝突」
- USAID組織文化の「粹」とは？
- USAIDに映してみたJICAの方向性(提言)

Why 組織文化？

- JICAの某課では関西弁が共通語となっているというのは本当か？
- なぜエコノミストはエコノミストの、法律家は法律家の発想をするのか？
- なぜ皆が無駄だと思っていることをやめられないのか？

組織文化とは...

- 価値観
- 発想方法
- 個人を超えた団体のベクトル
を総体的にとらえたものです

組織文化を知ることは、色眼鏡で見ることは違います

日米協調の現状

- 合同プロジェクト形成調査

日米協調の現場に見る 認識の違い

- 連携することに意義を見出す
- プロジェクトレベルでの連携志向
- プロセス-oriented
- 付加価値がなければ連携する意味はない
- 国家レベルでのインパクト志向
- アクション-oriented

新しい日米協力のビジョン

- 開発課題としての連携
- インパクト志向
- 時間に価値

USAID組織文化の「粋」

- 成果
- スピード/効率
- リーダーシップ

成果

- 測定できなければならない
- 面的広がりがなければならない
- 議会との関係、市民との関係
- 評価手法

スピード / 効率

- フラットな組織構造・意思決定
- 人材への投資
- 外注の促進

リーダーシップ

- リーディングドナーであることが組織目標として位置付けられている
- 戦略、ポリシー
- ネットワーキング
- 革新的なものへの投資

USAID組織文化、アプローチは日本の援助の行方を示している

提言

- 重要課題に対して、専門性に裏打ちされた効果的なプログラムをタイムリーに展開するために、
- 外注化を促進し、健全な援助産業が確立されるべき
- 援助機関は、実施機関から価値創出機関への脱皮を。

提言

- 目標: JICA事業の外注比率を40%にあげる
- そのために援助機関が変わらなければならないこと
- モニタリング・評価手法
- アカウンタビリティ向上